

いわた 文化財だより 第243号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和7年6月2日発行

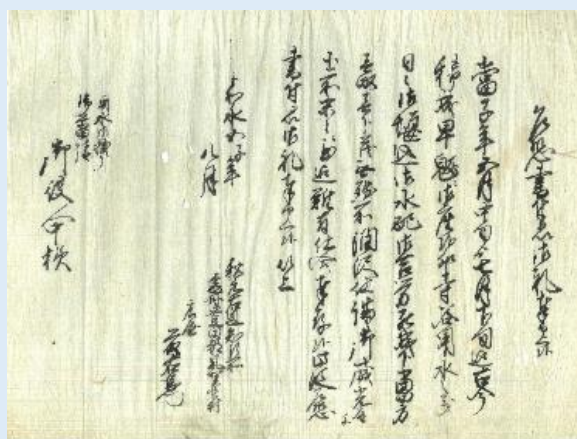
目次

- 『寺谷用水関係文書群』が
磐田市指定文化財に！ P1～2
- 旧赤松家記念館 米蔵展示 P3
- 木製燈籠復元模型・画像展示中 P4
- コラム『訪問歴史教室を通して』藤田圭二 . P4

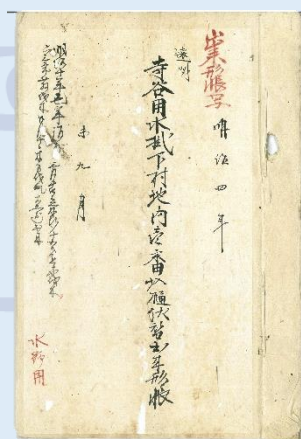


文化財課キャラクターともちゃん

『寺谷用水関係文書群』が 磐田市指定文化財に！



乍恐書付ヲ以御礼奉申上候



遠州寺谷用水掛下村地内
壱番込樋伏替出来形帳



覚（込樋入用相下金書付）

磐田市文化財保護審議会の答申を受け、令和7年4月21日に『寺谷用水関係文書群』が磐田市指定文化財に指定されました。これで、市の指定文化財は139件になります。今回指定となった『寺谷用水関係文書群』について紹介します。

『寺谷用水関係文書群』とは

寺谷用水は、徳川家康の命を受けた家臣・伊奈忠次と地元の代官であった平野重定が、天正18年（1590）に寺谷村から浜部村までの約12kmにわたって開削した用水路です。かんがい面積は、73ヶ村（後に80ヶ村）、約2,000haに及び、これにより2万石もの収穫をもたらしました。

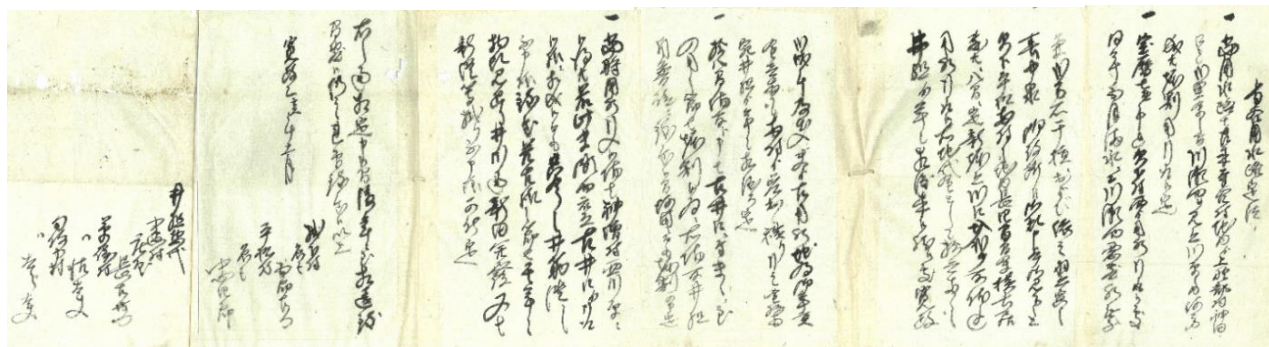
寺谷用水関係文書群は、寺谷用水沿線の名主や村などが所有していた近世文書や勾坂上村高木用水新旧堀絵図など、あわせて280点の資料からなります。

開削から400年以上経過した現在も、地域住民の生活を支える寺谷用水の歴史を知る重要な資料であることから、磐田市指定文化財となりました。

『寺谷用水関係文書群』の代表的な資料

『寺谷用水関係文書群』は、天正 18 年（1590）の寺谷用水完成から、約 100 年後以降の用水組合による維持管理や修繕、災害対応を記録した文書、絵図などで構成されています。ここでは代表的な資料を紹介します。

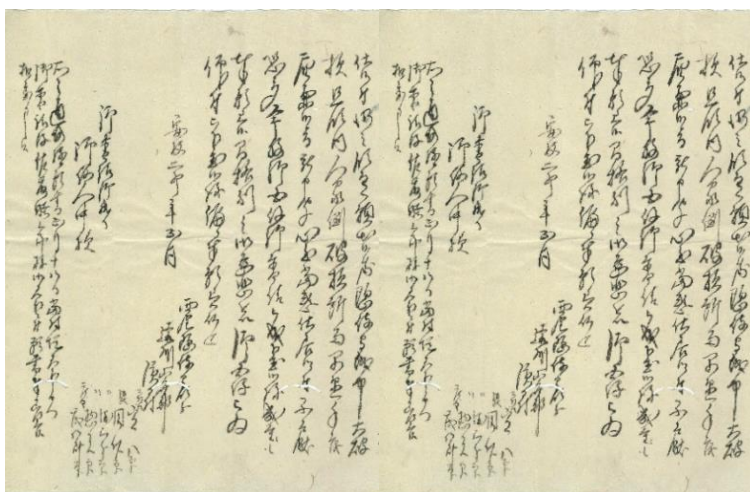
寺谷用水の維持管理



寺谷用水路定法

寛政 3 年（1791）11 月に書かれた資料です。用水路の維持・管理と用水引取に関する定法（公に決められた法）である寺谷用水路定法について書かれています。

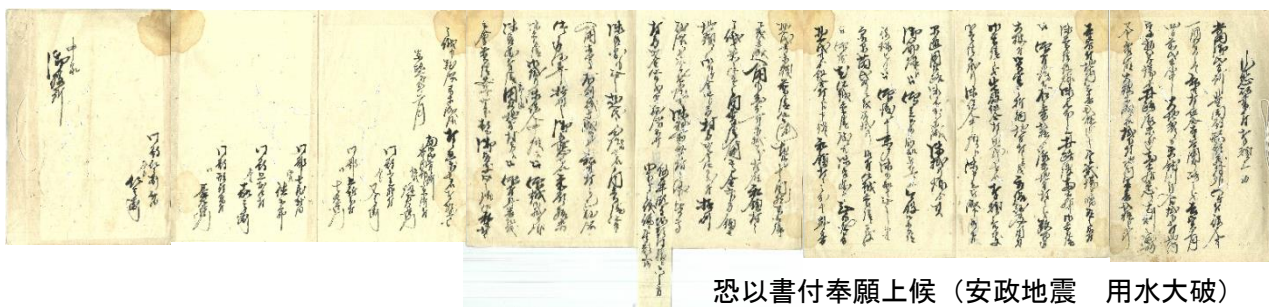
災害対応



恐以書付奉願上候（安政地震 垓樋普請願）

これらは安政 2 年（1855）に書かれた資料です。資料の書かれた前年の 11 月に起きた安政東海地震（マグニチュード 8.4、磐田市では震度 6～7）によって、寺谷用水が破損したため、その修復工事について記されています。

とくに下記の古文書では、大破した水路について、幕府から村が負担して工事をするように求められているが難しいため、役人をお願いしたい旨が書かれています。



恐以書付奉願上候（安政地震 用水大破）

市指定文化財「寺谷用水旧絵図」「勾坂中村絵図」ほか寺谷用水に関する絵図については、一部磐田市図書館の電子図書館にて公開しています。
（ログイン不要）



寺谷用水旧絵図



勾坂中村絵図

旧赤松家記念館 米蔵展示

男爵・赤松^{はん いち}範一と赤松家

～赤松家を継いだ長男・範一の業績～

日 時:開催中 ～7月27日(日)まで 9:00～16:30



展示室の様子

休館日:6/2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、30(月)
7/7(月)、14(月)、22(火)

場 所:旧赤松家記念館 米蔵 (見付3884-10)

現在、旧赤松記念館では、赤松家をテーマにした展示の第3弾を開催しています。

今回の展示では、赤松則良の長男・範一の業績と範一が執筆・編集したものなどを紹介します。



旧赤松家記念館についてはコチラ

赤松範一とは

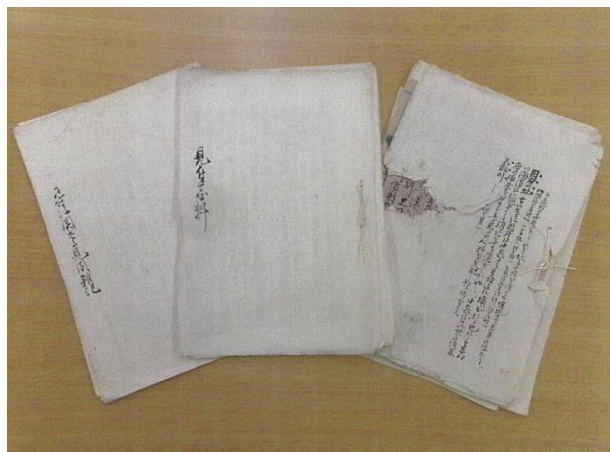
範一は、明治3年(1870)1月15日に日本造船の父といわれる海軍・赤松則良の長男として沼津で生まれ、20歳で従五位に叙せられ、大正6年(1917)に家督を相続し、男爵を受け継ぎます。父の跡を継ぎ、会社役員や議員として活躍したほか、民俗学にも精通していました。

範一は、東京に住みつつも明治25年頃からしばしば見付を訪れています。



赤松範一(25歳)

みどころ 範一が書き記した明治時代の見付



「見付志料」「見付に関する見聞雑記」
(磐田市立中央図書館蔵)

範一は、見付を訪れた際に見付の史跡を訪ねたり、地元の人たちに聞き取り、方言を記録するなど民俗調査をおこなっています。今回の展示では、それらをまとめた「見付志料」「見付に関する見聞雑記」などの冊子を展示しています。

また、範一が赤松一族の結束を高めるため、作文を募集し回覧した文集「公木(※)」も公開しています。4巻では、則良とその妻の似顔絵を筆頭に一族を紹介したものも掲載されています。ぜひ、会場でご覧ください。

(※) 赤松の「松」を分解したものをタイトルとした



特別史跡 遠江国分寺跡 木製燈籠復元模型・画像展示中

現在、磐田市では遠江国分寺跡の再整備を進めています。その一環として現地に原寸大（高さ3m）の木製燈籠を再現する予定です。古代の木製燈籠が再現されるのは全国的にも初めての試みになります。

遠江国分寺跡について詳しくはコチラ



木製燈籠（模型）

磐田市埋蔵文化財センターで展示中

木製燈籠の現存事例がないことから復元検討は難航しましたが、令和6年度末に復元案がまとまりました。

木製燈籠の模型（30 cm／実物の10分の1サイズ）を、原寸大の画像とあわせて磐田市埋蔵文化財センターにて展示しています。また、木製燈籠の細やかなデザインや大きさを実感することが出来ますので、ぜひお越しください。

磐田市埋蔵文化財センター（見付 3678-1）

開館時間：8時30分～17時 休館日：祝日・年末年始



職員リレー コラム

訪問歴史教室を通して

藤田 圭二

文化財課では、市内の児童・生徒の皆さんに、歴史を体感し、故郷に愛着を持っていただけるように「訪問歴史教室」をおこなっています。私も今までに何回か小学校を訪れ、子どもたちにお話させていただく機会がありました。主に、1学期は6年生を中心に縄文時代・弥生時代・古墳時代について、体験を交えながら歴史教室をおこなっています。また、3学期には、3年生の皆さんに昔の道具を使って、人々の暮らしの変化について学習するお手伝いをさせていただいています。

3年生の訪問歴史教室では、令和、平成、昭和、大正、明治と時代をさかのぼり、主に衣食住に関わる説明をしています。この中で、最も子どもたちに人気が高かったのは「黒電話」でした。「テレビドラマや、映画などで見たことはあるけれど、どうやって電話をかけるのですか」という質問を受け、「ダイヤル付きの電話機は、今の子どもたちには新鮮なことなんだなあ」と驚かされました。実際に使用していた世代は、「ダイヤルを回す」＝「電話をする」が、すぐに連想されるのですが、今の子どもたちには体験もなく、理解できないことであることを改めて知りました。

昔の道具について学ぶことは、その当時の人々の暮らしを知ることであり、今の暮らしとの違いを知ること、暮らしを便利で豊かにさせてきた先人たちの努力を追体験することができると思います。

さわれます！

磐田市
埋蔵文化財
センターにて
展示中！



詳しくはコチラ



編集後記 夏が近付いてきました。寒い日の炬燵でアイスもいいですが、やはり夏のアイスは格別！と、アイスのために今から冷凍庫の整理と掃除を考えている今日この頃です。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索

